

# 「令和6年度課題解決支援事業」成果報告書

市町村名 小牧市

事業名 「みんなで作る！夏まつり」

## 1 経緯

小牧市南部コミュニティセンターは、南部地域住民による広域的な地区活動の拠点として平成21年に開設された。設立当時から共に歩んでいる地域の代表「ふらっとみなみ運営協議会」と連携をし、年間を通し多くのイベントを開催している。また児童館が併設されていることから、高齢者から乳幼児まで多くの年代の来館者でにぎわってはいるが、多世代交流できるイベントが実施されていないこと、また利用者の固定化が課題となっている。避難所指定されていることもあり、地域との繋がりを日頃から構築しておきたいと日々考えている。

そこで今回の夏まつりを「地域全体で作る」を目標に、いつもは受け身であるイベントの準備を地域の方にも参加していただくことで、施設やイベントにより愛着を感じ、また多世代が一つのことを一緒に行うことで達成感を感じて、地域の繋がりの強化ができるのではないかと考えた。和太鼓奏者山川氏に相談し、和太鼓演奏の一曲を参加者全員でセッションするのはどうだろうという提案をいただいたこと、また来館者に装飾作りから参加してもらうのはどうかという発案により支援事業を受けるに至った。

## 2 趣旨・目的

イベントを通して多世代交流を行うことで、地域の繋がりを強化する。また新規利用者の獲得にもつなげる。

## 3 手段

ふらっとみなみ夏祭りの館内装飾作りや当日のイベント（和太鼓・SDGs工作など）を地域住民と共にやる。また自分で作った打楽器で、和太鼓セッションに参加をしてもらう。

## 4 概要

- ① 夏まつりの装飾として、提灯と風鈴づくりを行い飾る
- ② 太鼓を利用した「和太鼓エクササイズ」で健康増進（SDGs）
- ③ 「和太鼓パフォーマンス」の1曲を観客と一緒に打楽器を使いセッション
- ④ セッションで使う打楽器を、廃材で作る（SDGs）

## 5 実施状況・プロセス

令和6年5月 本事業を実施するにあたり、夏まつりでの和太鼓演奏をお願いしていた山川慎平氏と打ち合わせを行い、多世代で一つのものを作り上げ、達成感が感じられるようなイベントをしたい旨説明。また新しい年齢層の獲得にもつながるような催しをした

い旨伝えた。山川氏も地元出身者であることから、地元の活性化のお手伝いになればと和太鼓によるセッション指導をご快諾いただいた。セッションに使う打楽器を作ったら面白いのでは？という提案もいただき、夏まつりの工作ブースでできるかどうかを考えてみることにした。また和太鼓を使ったエクササイズは若い世代にも人気があると伺い、新規利用者獲得にもつながるのではないかと考えをお願いした。

同月、当施設のイベント運営を連携して行っている「ふらっとみなみ運営委員会」の会長であり、地域団体「楽成会」の一員でもある林氏に相談。夏祭りをより身近に感じてもらう為、スタッフだけでなく地域の皆さんと一緒に装飾を創り上げたい旨相談すると、「提灯を作ったらどうか」との提案をいただいた。骨組みは力のいる作業なので楽成会とスタッフで作り、障子貼りから色塗りまでを地域の高齢者や子供たちと一緒に行うことにした。館内を手作りちょうちんで飾るには30個必要と試算。

#### 令和6年6月【提灯骨組作り】

楽成会の皆さんと一緒に骨組みを作り始める。針金が固いので、なかなかの力仕事。楽成会の方の協力なしでは30個は難しいな、と思いながらの作業。6月21日に障子貼りをお願いしたいので、それまでに残りを職員で作り上げる。

21日、23日の定例サロン「ふらみなサロン」や「みなみな広場」で参加者と共に骨組みに障子を貼る。穴が開いたり、しわが寄ったりなかなかうまくできないと言いながらも、皆さん楽しそうに作業して下さり、30個の白い提灯が出来上がる。

#### 令和6年7月【提灯色塗り・風鈴づくり】

21日の「みなみな広場」で提灯に好きな色を塗る。思ったより濃い色になってしまい、提灯には見えないかな？と言いながらも、皆さんとても満足気に色塗りを終える。乾かして、天井に吊るす。提灯に見えるかは疑問も残ったが、館内はカラフルな提灯で夏っぽくなった。また同時に和紙を使って作成した風鈴も飾る。

#### 【打楽器決め】

同時に楽成会の皆さんと一緒に打楽器作りの構想を練る。子どもから高齢者までが安全に楽しめるもの、誰でも音が出るものということで、マラカスとカスタネット、新聞バチに決定。マラカスにつかう容器を集めたいので利用者さんに募集開始。

#### 令和6年8月【打楽器下準備】

当日、子ども達が安心・簡単に打楽器作りができるよう、事前にマラカスの本体作りを楽成会の皆さんと始める。施設にあるもので何を入れたらいい音が出るか、また幼児が使った時の安全面はどのように確保するかを検証。容器のキャップが開かないように、物干しざおカバーを使うことに決める。また牛乳パックを使って作るカスタネットの準備も同時進行で行う。

マラカス120個、カスタネット160個分準備。

## 令和 6 年 8 月 23 日【和太鼓最終打合せ】

山川氏と会場最終打合せ。太鼓搬入搬出のタイミングや本番の流れ、会場の配置など打合せ。打楽器も完成品を見せ、セッションの雰囲気も教えてもらい、本番が楽しみになった。当日は多くの演者が来てくださるとのこと。和太鼓の皆さんが地元を盛り上げるということに賛同してくれているとのことで、大変心強く感じた。地域の絆を地域の人たちで作る。その場所が当施設となることが、とても嬉しく感じる。

## 令和 6 年 8 月 25 日【夏まつり本番】

台風の影響を懸念していたが、当日は晴れ、多くの高齢者や家族連れが訪れてくださった。予約段階では空きのあった「和太鼓エクササイズ」も当日満員になり、実際に和太鼓を叩きながらのエクササイズはとても盛り上がった。工作コーナーの SDGs 打楽器作りも 13:30 には 280 個なくなり終了。和太鼓パフォーマンスも満員となった。和太鼓パフォーマンスは圧巻の迫力で、最後に行った打楽器セッションも、山川さんの声掛けで、皆が一つに。最後は会場中が大きな拍手に包まれた。工作やお化け屋敷、販売などどのブースも盛況。中には「この提灯は私が作った」と孫に話す参加者もみえた。

|                             | 参加人数（延べ） | 備考                                |
|-----------------------------|----------|-----------------------------------|
| 提灯づくり<br>(6/21, 6/23, 7/21) | 48人      | 定例の「ふらみなサロン」や「みなみな広場」にて作成         |
| 和太鼓エクササイズ                   | 61人      | 要申込<br>大人、小学生以上、未就学児以下の3コース（各20名） |
| 和太鼓パフォーマンス・セッション            | 150人     |                                   |
| 廃材打楽器づくり                    | 280人※    | ※用意した数による人数                       |

## 6 スタッフの感想

当施設主催の夏まつりということで、通常は全て職員で企画運営を行うが、今回は地域団体と相談しながら少しずつ方向性を決めていった。特に地域住民と一緒にいった装飾作りはとても新鮮で、参加してくれた皆さんの楽しそうな様子がとても嬉しかった。自分が好きなこと、やりたいことには積極的に参加してくれるが、地域の為に手伝ってもらおうということは初めての試みであったが不安であったが、自分の作ったものが飾られているのもいいものだねという話も聞くことができた。今回は音楽で多世代交流を試みたが、音楽は全ての人に感動をもたらすことを痛感した。

## 7 成果

今までの夏まつりでは、多世代交流できるイベントはあまり行ってこなかったが、今回和太鼓奏者山川氏の指揮で、多世代の参加者が見事にセッションすることができた。参加者からも、とても反響が良く、楽しかった！またやりたい！という声をいただいた。そのセッションで使った楽器が廃

材手作り楽器というところも、SDGs 未来都市である小牧市の施設として、よいアピールになった。多世代交流の一環として、今回は近隣中学校にボランティアを募りお手伝いをしていただいたが、一緒にブースの高齢者や来館者との交流にとっても貢献してもらえた。中学生もボランティアはしたいが、どうやって参加したらいいのかわからないという声も聞かせてくれたので、今後も続けてボランティア活動をしてもらいたいと中学校には要請をした。将来地域を盛り立ててくれる担い手との繋がりができたことは、大きな収穫となった。

## 8 課題

今回は夏まつりという大規模イベントで地域課題解決支援事業を行った。夏まつりとしての多世代交流は成功したと思うが、全てにおいて単発感が強く、継続という点では課題が残った。

## 9 今後の展望

多世代が利用する施設の特性を活かし、多世代が交流できるようなイベントや、地域住民やボランティアがイベントの準備から参加できるような環境を整える必要性を感じた。今回のようなイベントを継続的に行うことで、顔と顔が見える繋がりが構築でき、避難所運営における共助もよりスムーズになると考える。また今回近隣中学のボランティアをお願いしたが、今後は大学や企業などとも繋がりを持ち、施設だけではできない新たな企画運営を共に行うことで、地域を盛り上げ、新規利用者の拡大に努めていきたい。

## 10 職員としての取り組んだことによる学び・気づき

今までのイベントは職員が中心で行ったため、当日も細かなスケジュールを組み、地域のボランティアの皆さんに依頼をする形で行っていた。今回地域の皆さんと一緒に相談しながら進めることで、我々職員もどうなるのかわからない部分を抱えたまま当日を迎えることがいくつか生じており、人数が多いイベントだけに心配していた。しかし、地域の皆さんの臨機応変な対応や、ブース担当者間での話し合いで、とてもスムーズにイベントが進み、地域の皆さんの力で創り上げるイベントとしてふさわしい形であったのではと気づかされた。「お手伝いをする」のではなく「一緒にイベントを盛り上げる」には、地域のみなさんに主体的に動いてもらう。そこで得た「楽しい」が次へ繋がる。我々職員にとっては非常に大きな学びとなった。

## 【夏まつりチラシ】



## 【提灯作成】



## 【当日】

### 打楽器作り



### 和太鼓セッション



### 和太鼓エクササイズ

